



アートと仲よくなるためのワークショップ

—表現することを通して展覧会を楽しむ—
琳派の世界を体験しよう
～たらし込み技法に挑戦～(仮称)

日 時：7月18日(月・祝)13:30～15:30

講 師：大橋功氏

(岡山大学大学院教育学研究科准教授)

参加費：金額未定(材料費)

定 員：20人(小学校4年生以上)

場 所：地下1階研修室及び展示室

—どっぷり 作品と対話する—
'11中学生鑑賞教室 美術館へGO!!

日 時：8月4日(木)午前の部:10:00～12:00

午後の部:13:30～15:30

講 師：美術館ボランティアスタッフ等

(ナビゲーター)

参加費：無料

定 員：各回30人(中学生)

場 所：地下1階講義室及び展示室

—美術の広がり体験する—
アクション・ライト・ドローイング

日 時：7月29日(金)第1部:13:30～15:30

第2部:16:00～18:00

講 師：浅見俊也氏(アーティスト)

参加費：金額未定(材料費)

定 員：各回30人(小学生以上)



—県美を味わいつくす(みる・知る・調べる、そして、つくる)—
目指せクリエイター
～県美キャラクターをつくろう～



日 時：その2 8月7日(日)13:30～15:30

みる&知る～国吉康雄～

その3 9月24日(土)13:30～15:30

美術館探検

講 師：子川さつき&岡本裕子

(学芸員・デザイン担当&教育普及担当)

参加費：450円(材料費)

定 員：25人(小学校4年生以上)

場 所：地下1階研修室・講義室及び展示室

平成23年度 展覧会スケジュール(6月～9月)

特 別 展	横尾忠則展 絵人百九面相	6月 1 日(水)～7月10日(日)
	京都 細見美術館 琳派・若冲と雅の世界	7月15日(金)～8月21日(日)
	第62回 岡山県美術展覧会	9月 7 日(水)～9月18日(日)
岡山の美術展	福武コレクションによる 国吉康雄展	7月15日(金)～8月21日(日)
	没後30年 森谷南人子	8月26日(金)～10月10日(月・祝)

編集後記

美術館ニュース93号をお届けします。震災により大きな展覧会が各地で中止となっていますが、当館も人ごとではありません。特別展が中止となったゴールデンウィークは、例年に比べ入場者数も少々寂しいものでしたが、災害時のお客様、そして作品の安全確保について考える時間でもありました。6月からは横尾忠則展、7月からは細見美術館の特別展が控えており、ただ今準備を進めている最中です。どうぞこれからも足をお運び下さいますよう、心からお待ち申し上げます。【O.M.】

美術館ニュース 第93号
発行：2011年6月
発行者：岡山県立美術館
〒700-0814 岡山市北区天神町8-48
TEL：086-225-4800
E-Mail kenbi@pref.okayama.lg.jp

特別展

京都 細見美術館
琳派・若冲と雅の世界

2011年7月15日(金)～8月21日(日)



《絵因果経断簡》14世紀

この夏開催する特別展は、京都平安神宮の近くに位置するお洒落な美術館、細見美術館のコレクションから、琳派、若冲の厳選した代表作と、絵巻物や仏教美術、雅な調度の優品を一堂に展覧します。

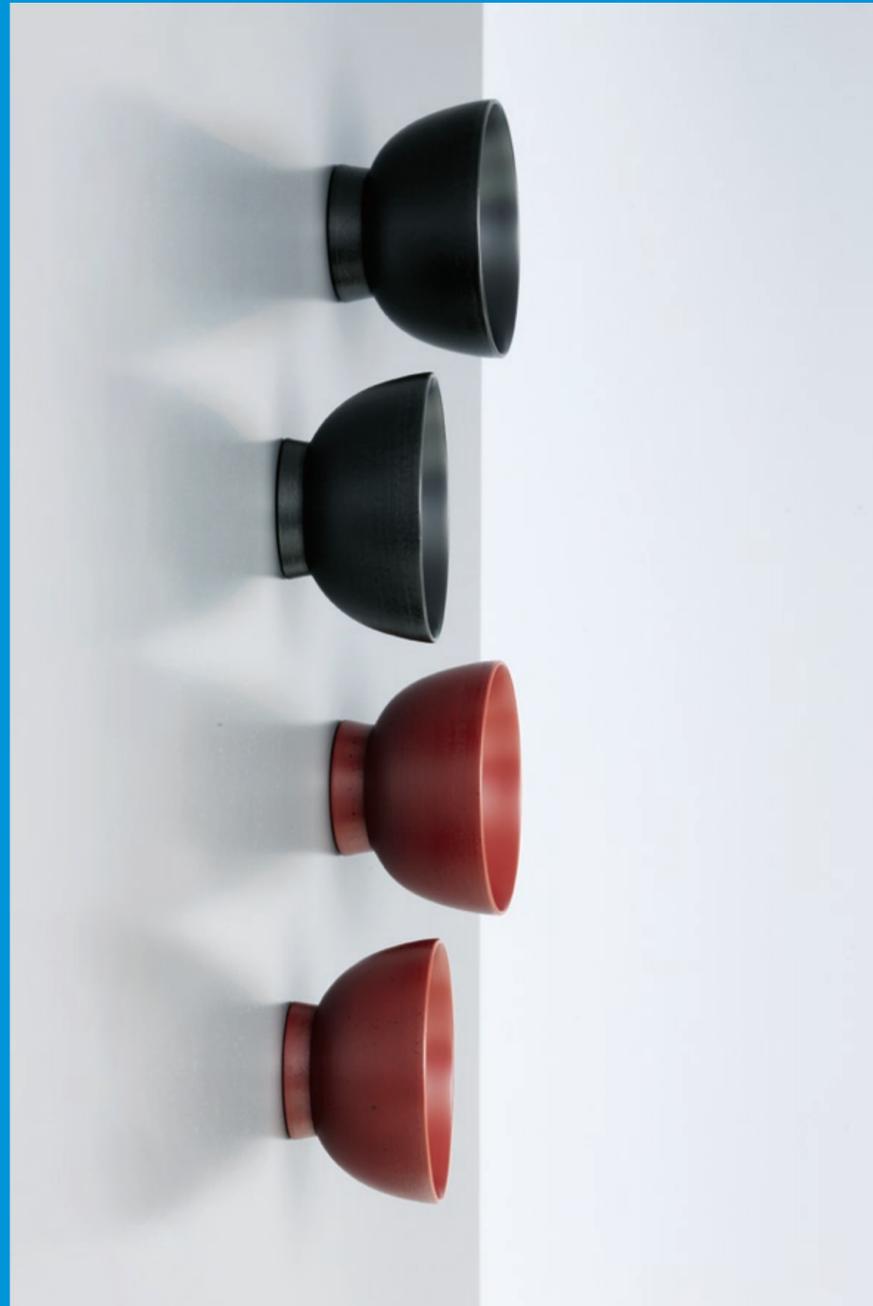
細見美術館は、初代細見良氏以来3代にわたるコレクションを広く公開するプライベートミュージアムとして1998年3月21日に開館しました。コレクションは縄文・弥生時代の土器から近代江戸琳派の作品まで、日本美術史を辿る多様な作品からなります。古代の仏教美術品、中世の絵巻物やその断簡(巻物を切断して一点の作品としたもの)、近世初頭の時絵や七宝などのコレクションは質量ともに高く評価されていて、重要文化財も多く含まれます。また、近年注目を集めている江戸時代絵画界の2大スターである、琳派と若冲のブームを牽引したのが細見美術館です。2代目實氏は酒井抱一、鈴木其一といった江戸琳派、ユニークで奔放な若冲の作品を特に好み、さらに近代の琳派作家神坂雪佳にも着目して、その洒落た作品が人々に広く知られるところとなりました。琳派・若冲の個人コレクションとしては世界屈指と評価されています。

本年度この展覧会は、三次・岡山・高知の3会場を巡回するものですが、絵画作品が多くを占めることから、各会場の出品リストには出入りがあります(保存のため長期間は公開できないのです)。図録に掲載されていても、当館では公開されないものもありますことをご容赦下さい。

なお、岡山会場では、初代良氏の一代記を絵巻にした一おそらく日本の絵巻物史上、最新の本格的な作品!一である久保田金櫻筆「細見良氏畫傳」により細見コレクションの誕生をご紹介します、重要文化財の絵巻物「山王靈験記絵巻」(室町時代)や池大雅筆「児島湾真景図」などコレクションの逸品で構成する<序章>と、「古香庵」と号し茶の湯を愛した初代の茶席がしのばれる道具類を紹介する<特別コーナー>「古香庵の取り合わせ」が加わります。

「雅」とは、風流で上品であること、洗練されていること、ひいては情緒や人情に通じているということです。美術品を作ったのは人、その美しさに共感し、伝えてきたのも人、彼らの情緒や情感にシンクロして美を堪能する雅の世界に遊んでみてはいかがでしょうか。 【学芸課長 中田利枝子】

観覧料	一般1000円、高大生700円、小中生400円、65歳以上500円
内容構成	<序 章> 1.華麗なる琳派 2.若冲の魅惑 3.源氏絵と王朝の雅 4.かざりの意匠 <特別コーナー> 古香庵の取り合わせ
関連事業	① 細見美術館長によるギャラリートーク 自由参加(観覧券が必要です) 7月15日(金)開会式終了後(10:00頃～) 場所:展示室 講師:細見良行氏(細見美術館館長) ② 記念講演会「細見コレクションについて」(仮題) 先着210名(聴講無料) 7月23日(土)13:30～15:00 場所:2階ホール 講師:細見良行氏(細見美術館館長) ③ 子ども特別鑑賞会「江戸時代の絵のなかに生きる身近な命、草花・虫・鳥・動物たち」(仮題) 自由参加(観覧券が必要です) 8月14日(日)(未定)14:00～15:00 場所:展示室 講師:中田利枝子(当館学芸課長) ④ 美術の夕べ「細見コレクションを見る」 自由参加(観覧券が必要です) 7月22日(金)18:00～18:40 場所:展示室 講師:中田利枝子(当館学芸課長) ⑤ ワークショップ「琳派風扇面図をつくろう」 県下小中学生より作品募集(各校に募集要領配布) 優秀作品を屏風に仕立て、地下広場に陳列します ⑥ ワークショップ「琳派の世界を体験しよう～たらし込み技法に挑戦!!～(仮称)」 小4～一般対象 事前申し込み 7月18日(月・祝日)13:30～15:30 場所:研修室 講師:大橋 功氏(岡山大学大学院教育学研究科准教授) ⑦ '11 小学生鑑賞教室「貝あわせで遊ぼう!」ほか 岡山市内小学校5～6年生 事前申し込み ⑧ '11 中学生鑑賞教室 美術館へGO!! 県下中学生 事前申し込み



赤木明登「飯椀・汁椀」

3・11を機に考えたい

館長 鍵岡正謹

3・11東日本大震災には大変なショックを受けた。東京杉並の自宅は5強の震度を受け揺れに揺れ倒壊を覚悟したほどで、2階の書斎は本の洪水となり、まさに茫然自失の状態となった。余震がつづき全くの思考停止のまま、ただテレビに映しだされる東北地方の凄まじい地震と津波に言葉を失った。追いかけるフクシマ原発事故の不気味な様相、天災に人災、最悪の状況を呈した。何かをやろう、何か動こうとすると、今、こんなことをしてよいのか、と自身で強迫してしまふ。そうして2ヶ月がたった。

私たち岡山県立美術館が、開催を楽しみにしていた「ムーミン展」は吹き飛んだ。6月1日からはじまる「横尾忠則展」のために原稿用紙にむかい、3月末日「地揺れ・家揺れ・身揺れ」ながら拙論を書いた。本展に出品されるなかに、横尾絵画<花巻温泉>があり、宮沢賢治が描かれる。「この時期、ただ沈黙、賢治の詩を思い出すのみ」とだけしか書けなかった。ついで4月29日、香川県立ミュージアムでの「棟方志功展」で講演を行った。東北出身の版画家棟方は賢治の詩「雨ニモマケズ」を「不來方板画柵」に刻っている。来場して下さった方々とともに朗読し、東北を祈った。声を出して詩を読むこと、森羅万象に祈りをこめた棟方版画を見ること、わが心身は大いに鎮められた。

横尾絵画と棟方板画に賢治の詩、芸術の効用は確かに存在すると強く思えた。

岡山に3・11東日本大震災の揺れが来なかったのは幸いであった。岡山県立美術館が平成18年に策定した「地震対策要領」がある。本要領を読みながら地震対策への自覚を持たねばならないと思う。と同時に、今回の地震は阪神大震災と違い、美術館に来館者がいた。名古屋以東の美術館は大小の違いはあれ地震が来て、その対策がまず第一であり、入場者への対応の相違など、現実に対応の難しさを聞き知った。

私たち美術館人は、地震対応に共通する基本的な対策を、今回の地震体験をもとに「対策要領」に生かしたい。全国美術館会議はすでにそれに着手しているだろうし、すでに文化財レスキュー隊を派遣している。私たち岡山の美術館も全国の美術館と連帯し連携を深めなければならない。

私ども美術館は「ムーミン展」が中止となったように、全国の美術館で海外展の困難が目立ってきた。諸外国の眼が厳しくなるなかで、3・11直前の国会では“海外美術品借用の国家保障”の法案が通過している。海外の風評も変化をみせているとは云え、3・11以後に私たち美術館の役割は何かを自問自答する必要がある。だがしかし、東北の美術館をはじめ、全国の美術館は、こういう時期だからこそ開館しつづけることが必要である。

美術は人びとの心の支えとなる。美術の力を信じ、美術館は人びとを迎える場でありたい。

ニューフェイス紹介

学芸員の古川文子です。主に岡山県新進美術家育成「I氏賞」の事務を担当します。若い芸術家の方たちのお役に立てればと思います。小2男子と2歳女子の子育てに奮闘中ですが、課内に二人もママ友ができ、心づよいです。

4月より事務員として勤務しております新谷けい子です。主に教育普及活動を担当します。学生時代に博物館実習で訪れた岡山県立美術館との縁を大切に、誠意職務に励みたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

4月から司書として勤務しております善木典永と申します。主に、図書資料の管理を担当しています。基礎資料として、美術館の運営に役立てられるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



赤木明登 あかぎあきと

赤木明登(一九六二)は岡山県浅口郡現・浅口市(金光町の生まれ。編集者として出版社に勤めたのち、平成元年(一九八九)輪島塗下地職人に弟子入り。平成六年(一九九四)に独立し、輪島で塗師として日用の漆器作りを始める。同年十月に初個展を開催、その後は国内外での個展を中心に活動。「写し」の手法を用い、古作の器物を咀嚼した上で造形と質感を追求して作る器は、洗練されているながら素朴な暖かみを持つ。また、著書などを通じ普段の暮らしに漆器を使うことを積極的に提案し

「飯椀・汁椀」一九九四年作 飯椀・高八二×径十三・〇cm 汁椀・高七・〇×径十二・四cm

ており、漆に馴染みのなかった世代を中心に、着実にその器の使い手を増やしている。本作の外側の特徴的な質感は、下地の上に和紙を貼り拭漆で仕上げたもの。内側は、塗立と呼ばれる、塗ったままの艶を生かすやり方で塗られている。艶をおさえず、マットな肌合いを引き出した。作家の原点といえる作品である。

【学芸員 子川さつき】

収蔵品検索システムが始まりました

前回の館ニュースでも告知していた通り、平成23年4月1日からオンライン上での収蔵品検索システムが本格的に開始いたしました。所有権や著作権の関係から、ネットで検索できるのは当館の所蔵する作品(館蔵品)が原則となりますが、今まであまり見たことのなかった作品との出会いがあるかもしれません。是非一度、のぞいて見ていただければと思います。

これは当館のホームページからご覧になることができます。トップページ、利用案内の『所蔵品検索』のバナーをクリックしていただくと、検索画面が現れます。そこから「フリーワード入力」、「展示中作品一覧」、「作家名で調べる」、「作品名で調べる」、「ジャンルで調べる」など、用途に合った検索ができるようになっています。

平成23年5月2日から、館内でも同じ収蔵品検索が行える機器を、地下1階ホワイエに2台設置しました。県内から団体鑑賞に来る小学生や中学生などの子どもたちにも、より美術館の作品を身近に感じてもらえるよう、積極的に検索システムに触れる機会を設けるようにしています。実際に展示室で鑑賞をした後、検索システムを使って作品や作者について調べることで、子どもたちの作品に対する自発的な興味・関心を促し、美術的思考を伸ばすことに繋がるのでは、と期待をしています。

収蔵品検索システムは、どのような作品があるのか知りたい時、作家についてちょっと調べたい時、作品を鑑賞する前の予習のために…と、色々な用途に使っていただき、これからの展示品鑑賞のお供に、本物に直面するためのツールとしてご利用いただければ幸いです。



■フリーワードで調べる

収蔵品検索のページ上部、虫眼鏡の隣の「フリーワード入力」の覧に、検索したい作品や作家のキーワードを入力していただくと検索ができます。



■展示中作品一覧

そのとき美術館で展示している館蔵品をみることができます。(寄託品を含めた作品リストは、ホームページ上で「岡山の美術展の目録」として別途ご覧いただけます。)



■作家名で調べる

あいうえお順に並んだボタンの中から、作家名の頭文字を選び、作家の名前を探して検索ができます。



■作品名で調べる

作品の名前の他、作家、制作年、材質・形状、ジャンル項目にキーワードを入力して検索することができます。



■ジャンルで調べる

『作品名で調べる』よりさらに詳しく、作品のジャンル別に検索を行うことができます。(大区分、中区分、小区分の選択を行って下さい。)

【学芸員 尾崎 碧】

福武コレクションによる 国吉康雄展

2011年7月15日(金)～8月21日(日)

岡山市中出石町(現在の岡山市北区出石町一丁目)に生まれた国吉康雄(1889-1953年)は、1906年に17歳で単身アメリカに渡り、苦勞して働きながらロサンゼルスやニューヨークの美術学校で絵を学びました。国吉は、アメリカのフォークアートやヨーロッパの前衛美術、あるいは日本美術から影響を受けながら、1920年代になるとプリミティブで幻想的な独特のスタイルを確立してアメリカの画壇で活躍するようになります。そして戦時下では、敵性外国人として苦しい立場に置かれながらも反ファシズムや反戦のメッセージを自らの作品に託して伝え続けました。日本とアメリカという二つの祖国のはざまでも苦悩しながら自己のアイデンティティを模索し続けた国吉は、戦前戦後を通じてアメリカを代表する画家の一人として活躍し、名声を博しました。

国吉の描く作品は、人物にしても風景にしても静物にしても、何か意味が込められていそうなモチーフに溢れています。性別がはっきりとしない丸々と太った子供、憂いに満ちた表情で物思いに耽る女性、煙草を片手に横になるサーカスの女やマスクを被った怪しげな道化師、巨大なバツやカマキリが少女を追いかける夢想的空間、荒涼とした大地や山々の風景、あるいは日本の張子の虎や逆さの木馬といった暗喩的静物などです。これらの意味あがりなモチーフに満ちた国吉の作品は、まるで解釈されることを待ち望んでいるかのように私たちの前に存在し、魅了し続けます。

今回の展覧会では、2003年4月以来岡山県立美術館に寄託されている、福武總一郎氏所蔵の国吉作品ならびに関連資料571点からなる「福武コレクション」の中から、油彩画を中心に、版画、ドローイング、写真、関連資料などを幅広く展覧します。岡山に生まれアメリカで成功した稀有な画家・国吉康雄の生涯と創作活動を、その初期から晩年まで俯瞰できる福武コレクションを通して改めて紹介したいと思います。【学芸員 橋村直樹】



《ミスター・エース》
1952年 福武コレクション



《バナナをつけた女》
1936年 福武コレクション

「岡山の美術」特別企画

もりたになんじんし 没後30年 森谷南人子展 ただいま準備中!

2011年8月26日(金)～10月10日(月)

森谷南人子(本名利喜雄/明治22年-昭和56年/1889-1981)は、現在の岡山県笠岡市に生まれ、京都市立美術工芸学校、同絵画専門学校へと進学しました。大正から昭和にかけて多くの個性豊かな画家たちが集った国画創作協会展、国展解散後は新樹社展、帝展、日本南画院展などに作品を発表。牧歌的で穏やかな田園風景を描き、小野竹喬、池田遙邨とならんで本県ゆかりの近代日本画家として当館でも注視しています。近年、遺品の整理や調査が進み、南人子の画業の新たな一面を示す未表装の作品や同時代の作家たちとの交流がわかる資料が見つかっています。

南人子は、経済的に恵まれた環境にあり、日本の画家たちが大きな影響を受けた雑誌『白樺』や多くの美術書、洋書を手に入れることができました。今日に遺る旧蔵書は300冊ほどですが、約50冊は洋書で、一例を挙げると大正3年(1914)に購入したことがわかるシスレーやモネらフランス印象派を紹介したもの(『The French Impressionists』Camille Maclair)などがあります。洋書の中には、図版のみ開封して文章ページは未開封のものもあり、南人子はそのに掲載されている図版を見ることが目的であったと推測されます。

また、スケッチ帖も90冊以上遺っており、作品と照らし合わせて見ることができます。实景を丹念に写生したもの、作品にすべく画面を区切って構成したものなど、南人子が見ていたもの、描こうとしていたものは何だったのか、本画とはひと味違った魅力があり、興味深いものです。

本展では、これら新資料の管理と整理にあたる笠岡市立竹喬美術館の全面協力を得て、南人子の作品を改めて見直してみたいと思います。【学芸員 福富 幸】



《小川附近》大正13年頃 笠岡市立竹喬美術館



スケッチ